

特別支援教育研究論文集

—令和5年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力:独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

高等学校における生徒の特性に応じた
指導や支援の充実を目指した実践
—通級による指導の教材集の作成と活用を通して—

宮崎県立高城高等学校

研究代表 教諭 甲斐 綾子

令和6年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

我が国では、平成 30 年度から「高等学校における通級による指導（以下、高校通級）」が制度化された。本校は、宮崎県の高校通級の拠点校として、自校の、通級による指導（以下、通級指導）の取組を通して校内体制を構築してきた。本校の通級指導は、ティームティーチング形式で行っている。本校の教員は、これまで全員が T2 として指導に関わる経験をしているため、個別の生徒への指導・支援について理解が進んでいる。また、本校では、校内体制構築の過程において職員研修や検討を重ねており、高等学校の特別支援教育の重要性について理解が深まっている。

本校の通級指導においては、個別の生徒にワークシート等を作成しており、その蓄積がある。一方、校内では対象生徒に対する組織的な指導はできているものの、その効果が通常の学級の指導の実践へ十分生かされているとは言えない状況がある。本研究は、通級指導で作成したワークシート等を教材集として整理し、通常の学級での実践に積極的に活用を図ることで、生徒の特性に応じた指導や支援の充実につなげることを目的とする。

通級指導については、特別支援学校の自立活動に相当する内容の指導を参考にして行うようになっている。本研究では、通級指導の内容が、すべての生徒に必要な指導・支援であることに着目して取組を進めた。通級指導の内容すなわち教材集の指導内容を、自立活動の指導内容と関連付けて、すべての教員が一斉指導を行う際に、個別の生徒の特性に応じた指導や支援に生かせることを目指した。具体的には、教師の視点である「教師が通常の学級における指導で困難に感じていること」を調査し、生徒の視点である「生徒の困難さ」と照らし合わせた。一斉指導の中で「生徒の困難さ」を改善・克服できるような内容の LHR 等の時間を設定し、事前に職員研修を実施した。職員研修では、通級指導で作成した教材集や参考資料を提供し、教員同士のグループワークによる、実際の指導を想定した指導案作成に演習を行った。すべての学級において LHR 等の指導を実践し、これらを通して、教員の特別支援教育の専門性の向上を図った。

研究の結果、本校の多くの教員は、通級指導で作成した教材集を提供すれば、通常の学級の実態に即した指導を考えてアレンジし、多様な教育的ニーズを有する生徒への指導・支援においても役立てられることが明らかになった。さらに、この取組から、自身の教科指導においても同様に生かせると思った教員が多くいることが分かった。本校では、高校通級を基点として、すべての生徒に行った指導・支援の充実が、教員の意識向上にもつながったと考えられる。今後、この取組が学校生活のどの場面においても活用され、すべての生徒が生活の土台部分である「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」を身に付けて卒業し、活躍することを期待したい。この取組を宮崎県内の通級拠点校に広め、高等学校の特別支援教育の充実へと広げていきたいと考える。

キーワード：高校通級、自立活動、通常の学級